

白川町第6次総合計画【案】に関するご意見と回答

No.	項目名	ご意見の内容	回答（町の考え方）
1	基本目標1「産業・経済の循環に地域資源を活かす」	<p>施策2 観光の振興、インバウンド需要について、海外からのお客様をお招きするため、ピアチェーレや道の駅などの窓口にタブレットを用意し、UDトークの翻訳機能を活かし、相手の言語を表示して対話ができるようにしておくことが望まれます。</p>	<p>観光の振興やインバウンド需要への対応は今後ますます大切になってきますので、まずは対応する職員がだれもがその施設を気持ちよく使っていたるように対応することや一層のサービス向上に努め、必要に応じてUDトークの翻訳機能をはじめとした携帯端末音声アプリケーションや各種ツールを活用していきたいと思えます。</p>
2	基本目標2「生きがいと活躍の場を作り、健やかな暮らしに活かす」	<p>施策2 地域福祉の推進、町民による生活支援体制づくりについて、様々なイベントや行事などに字幕表示をして、高齢者から「字幕有ると話しがわかる」との声を頂いた。町内外国人就労者の方の為にも、UDトークを活用して字幕表示をして、文字による情報をお伝えすることを望みます。また、UDトークの活用者の養成を要望します。</p>	<p>これまでも町民会館グロリアホール等での行事では、団体の力をお借りして音声認識アプリを活用した字幕表示を行っているところです。町主催行事では、引き続き団体の力をお借りして意思疎通支援の充実を行っていきたくて考えています。</p> <p>地域福祉の推進の中で、福祉、災害など様々なボランティアの育成を掲げているところです。関係機関と連携を図りながら、課題解決に向けた支援を行っていきたくて考えています。</p>
3	基本目標3「最新技術と情報を安全・安心な暮らしに活かす」	<p>施策4 生活環境の充実について、行政事務の効率化をするため、UDトークの活用を勧めて下さい。</p>	<p>窓口などでの個別対応では、状況に応じては音声認識アプリを使用するなど、相手に必要な情報が伝わるように常に心がけるとともに、丁寧な接客を行っていきたくて考えています。</p> <p>また、各種会議において、UDトークを活用した議事録の作成を行い事務の効率化を図っています。</p>

4	<p>基本目標 4「ふるさと愛を育み次世代のまちづくりに活かす」</p>	<p>施策 1 教育環境の充実、Society（ソサエリティー）5.0 時代に向けた ICT の活用について、これからはオンライン授業を活用するようになり、先生と音声だけではなく、UD トークを活用し字幕表示をして、子供たちに情報をお伝えすると、より授業の内容が伝わりやすくなります。また、万が一、動画の音声途切れた場合でも、字幕があることで先生の話の内容が子供たちに伝わります。</p> <p>施策 3 芸能・文化の振興について、外国人の方にも、歌舞伎を観ていただけるよう、UD トークの翻訳機能を活用し、母国語で表示して、外国の方にも歌舞伎を楽しんでもらいたいです。</p> <p>施策 4 自分を生かす・生きる力の醸成について、インターネットの使用について安心して使う方法、または危険な使い方を学んで欲しいです。</p>	<p>オンライン授業の活用については、今後の検討課題であり、子どもたちの学びについて最適な方法を様々なツールを試しながら模索していきたいと考えています。UD トークについても、その 1 つとして活用を検討したいと考えています。</p> <p>外国人の方をはじめとする多くの方に伝統芸能である地歌舞伎などをより楽しんでいただけるよう、翻訳は有効かと思えます。リアルタイムでできるかといった課題もあるかと思いますが、事前に台本を翻訳するなど検討できるかと思えます。</p> <p>インターネットやスマートフォンの利用は各学校で参観日などを利用して親子インターネット・セキュリティー教室を行っています。青少年が犯罪の被害者、加害者になることのないよう引き続き啓発を行っていきます。</p>
5	<p>基本目標 5「住み続ける人、住みたい人の良さ、つながりを活かす」</p>	<p>施策 1 地域コミュニティ活動の推進について、自治会の議事録作成に UD トークの活用をおすすめします。</p> <p>施策 2 地域間交流関係人口の創出について、国際交流の推進で、UD トークの翻訳機能を使えば、町内に来たイタリアの青少年と、白川町の子供たちが、より楽しく交流できるようになると思えます。</p>	<p>自治会等各種団体の要望に応じ、UD トークの活用希望があれば説明をさせていただきます。</p> <p>外国人の方との交流には必要に応じて UD トークの翻訳機能をはじめとした携帯端末音声アプリケーションや各種ツールを活用していきたいと思えます。</p>

6	<p>基本目標5 「交流・協働 住み続ける人、住みたい人の良さ、つながりを活かす」</p>	<p>住んでしまえばみな同じ“白川町民”です。代々“住み続ける人”も“住みたい”と思って移り住んできた人も全て“住んでいる人を大切にす”白川町であって欲しいと切に願います。</p> <p>これは、未来部が委託を受けて行ってきた「楽しい会議」形式の「6次総・意見出しの場」や貼り出しによる意見収集およびwebアンケートでも多く寄せられた意見です。</p>	<p>基本目標5の施先3移住・定住の推進の中に「住みたい、住み続けたいまちづくり」を掲げさせていただきました。住む人、訪れる人、全ての人にとってより良い白川町を共に作っていきたいと思います。</p>
7	<p>基本目標5 「交流・協働 住み続ける人、住みたい人の良さ、つながりを活かす」</p>	<p>“対話の場”を活用し、住民主体のまちづくり・人づくりを町民と共に進めて行かれることを期待します。</p> <p>今回の6次総は、準備段階で「6次総・意見出しの場」や「6次総webアンケート」などを通して多くの町民の方が関心を持ち意見を出す機会を得ました。これまでには無かった事だと思います。自分が暮らす町のことを当事者意識を持って多くの人が考えたこの機会を無にしないよう、引き続き町民のみなさんが総合計画の内容や町の行く末に関心を持って暮らして行けるような仕組みがあると良いと思います。</p> <p>これまでは「役場にお任せ」で済んで来たと思いますが、変化の激しい現代社会において8年間という計画の間には想定外の事が色々あることと思います。外ならぬ自分が暮らす町の事を、人任せにせず、人のせいにせず、行政と町民が協力してお互い出来ることを考える町になったら良</p>	<p>引き続き町民の方々のさまざまな意見が町政に反映できるよう、話し合いの場を設けたり、アンケートを実施していきたいと思います。また、計画の進捗や変更、事業の検証などにも活かしていきたいと考えます。</p>

いと思います。そのために、例えば6次総の各項目についての関心度や理解を問う “まちづくりアンケート” のような町民が意見を表出する機会を年に一度でも設けて頂ければ、総合計画の進捗を見守り、さらにその先を共に考えて行くことが出来るのではないかと思います。

また、様々な社会環境の変化や人口が減り続けて行く中で、あらゆる局面において“従来の形”を“維持”することは大きな負担となりつつあります。現在および将来に暮らす人達の負担を軽減する意味でも、地域課題をはじめ様々な情報を町民と町民、そして行政が共有する“対話の場”が必要であると考えます。

“対話の場”とは、誰もが安心して話せる場であるべきであり、その為には楽しく語り合える仕組みづくりや支援が不可欠です。コロナ渦で対面式のコミュニケーションが難しくなっている昨今において、インターネットやSNSなどを使った非対面式の“対話の場”（例えば、web アンケートやインターネット上の掲示板など）があれば、いつでも町に意見を届けることが出来て町民の安心につながります。また、必ずしもITが使える人ばかりではない事も考慮して、各地区ふれあいセンターや学校に目安箱のような箱を置いて投書できるようにすることも必要だと思います。その際には、共有する仕組み（掲示、web 公開などで意見が見える状態）があると多様な意見や考えを知る事ができ、町内に暮らす人同士での理解や

交流がより深まる良い循環が生まれると思います。それも、一方通行ではなく、公民館や町民会館に掲示したりそこにさらに感想やアイデアを付け足せたりSNS等オンラインでも発信できるようにするなど、なるべくリアルタイムに近い感覚で共有する仕組みが作れると良いと思います。

さらに、多様な地域特性を持つ地区を抱える白川町ならではのやり方として、それぞれの地区で住民同士が“対話の場”を運営していけるように支援する仕組みがあれば、より一層“地域コミュニティ”も活性化し、人材も育ち、“住民主体のまちづくり・人づくり”が地域ごとに進み、その結果“住みたい、住みたい”白川町につながると思います。

ところで、今後ますます「NPO等まちづくり団体」の活躍が期待されますが、既に活躍されている団体においては高齢化・後継者不足の問題があったり、新たに団体として活動しようという思いを持つ人においても仲間作りが難しいという問題があるかと思います。

一方で、町内には多様な人材があり、しかしながらたまたま知られていない・繋がっていないという場合もあると思います。人材育成事業においては、そうした人材を“発掘”し繋げる仲間作りが必要です。それには、“対話の場”を活用する事が効果的だと考えます。まちづくり団体の育成や支

	<p>援に“対話の場”を活用することは人づくりであり、その結果“まちづくり”に思いのある人や団体の活性化に繋がり、ひいては白川町の活性化にも繋がると思います。</p> <p>以上述べましたように、“まちづくりアンケート”など年に一度でも町民が意見を表出する機会や、いつでも町に意見を届けることが出来る仕組みなど、“対話の場”を活用した住民主体のまちづくり・人づくりで、行政と町民が共に歩んでいける8年間になることを期待しています。</p>	
--	---	--